

■待望の初TDも。学生合同チームが社会人と交流試合

開催中の道学生選手権に特例で出場した2部4大学の合同チームと、社会人チーム有志の交流試合がスポーツの日の10月10日、札幌学院大グラウンドで行われた。選手権では2戦全敗で終わった合同チームに、もう1試合をプレゼントしようと北海道社会人連盟が企画した。試合は62-6で経験豊富な社会人有志の大勝に終わったが、合同チームも待望の初TDを奪い、フィールドで喜びを爆発させた。

合同チームは北海道科学大の8人、札幌学院大の4人、北海道医療大の3人、札幌大の1人に助っ人の若手OB5人が加わり総勢21人。社会人有志はクルムスイーグルスが8人、北海道ブルズが7人、札幌ベンガルズが4人、北海道ライズ3人の総勢23人が出場した。あいにくの小雨交じりのコンディションとなったが、社会人有志が第1Q1分に70ヤードTDランで先制すると、その後もTDを量産して先輩の貫禄を見せた。

合同チームの見せ場は第4Q6分。自陣46ヤードからの第3ダウンの攻撃で、北海道科学大のQB広島拳（2年、札幌新陽高）が投じたパスを北海道科学大WR藤川拓斗（2年、浦河高）が好捕し、そのまま走ってエンドゾーンへ。54ヤードの鮮やかなTDキャッチで意地を見せた。

実戦3試合目でチーム初のTDに加え、インターセプトも2本のWR藤川は「ちょうどいい所にパスが来て、あとは走るだけだった。初めてのTDはすごくうれしかった」と試合後も興奮気味。パス捕球にインターセプト、再三の好タックルと攻守に活躍した北海道医療大のWR板東晃太（2年、神奈川・桐光学園高）も「社会人と当たり、盗めるものがあった。インターセプトは狙っていた」と振り返った。合同チームの主将も務めた北海道科学大主将のOL/DL千葉悠太（3年、岩見沢西



高)は「試合を重ねて一つのチームになれた。この経験を生かして、来年は単独チームで選手権に出場したい」と決意していた。



試合後に記念撮影する学生合同チームと社会人有志の選手たち